

令和2年度 第1回 小平市文化財保護審議会 要録（書面開催）

日 時 : 令和2年5月15日（金）

場 所 : 次第資料を各委員へ郵送することによる書面開催
（コロナウイルス感染拡大防止のため）

書面送付対象者 : 小平市文化財保護審議会委員 会長及び委員9名（質問者1名）

回 答 者 : 文化スポーツ課文化財担当

議題に対する委員からの質疑及び事務局からの回答

■鈴木遺跡発掘調査総括報告書について

【委 員】 鈴木遺跡総括報告書を拝見したが、鈴木遺跡の価値はやっぱり凄いと実感した。報告書中の言葉の通り「鈴木12文化層から鈴木1文化層へとあたかも1枚の年表を見るかのように眺め渡すことができる」報告書になっていると思う。報告書のP20に「ビーナス図1-2.5」とあるが、報告書には該当すると思われる図が見当たらない。実際には（刊行に当たって）削除されたものか？

【事 務 局】 そのとおりで、誤植です。

【委 員】 報告書の販売はどのように行うか？

【事 務 局】 総括報告書は、埋蔵文化財国庫補助金で印刷した表紙がモノクロ版のものと、市の単費で印刷した表紙がカラー版の2種類があります。補助金で印刷したものは、国庫補助金の規定上原則として有償販売が行えません。そこで、そうした制約無しに有償販売が行える市単費での印刷分を一般向けに販売します。

販売場所は、小平市役所本庁1階の市民相談課市政資料コーナーで、価格は2,000円です。また、考古学研究者向けのデータ集の付編DVDも併せて販売し、こちらは700円となります。

■令和2年度のふるさと村行事計画について

【委 員】 昨年、毎年行われていた11月3日「小平の結婚式」が、申し込み者が集まらないということで、ふるさと村まつりに変更になった。このまつりは参加してみて親子連れで大変賑わいよい行事だと思った。しかし、毎年恒例の行事が減る淋しさもある。そこで、募集の方法を変えて小平の昔の結

婚式が復活することを望みたい。

【事務局】 ふるさと村指定管理者である小平市文化振興財団に、その旨お伝えする。

■保存管理等用地整備事業のパネル展について

【委員】 パネル展の見学者から、事業に対しての意見が多数寄せられたと思うが、回答のようなものは発信するのか？

【事務局】 本パネル展で寄せられた意見は、今後の整備計画の参考意見として記録は残しますが、今回のパネル展の業務として個別の回答は行わない。整備事業に関する市民からの意見募集は、整備計画の策定段階でも行う予定であり、このときは市の規定に基づき寄せられた意見に対する市側からの回答を行う予定です。

【委員】 又、新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言によって国指定になるまでの流れに影響はあるか？

【事務局】 現時点ではスケジュールに変更はない。当初計画の見直し通り進める予定。

■海岸寺山門の屋根劣化診断調査について

【委員】 本業務はその後進展はあったか？

【事務局】 海岸寺山門の劣化診断調査の見積もりは、前回令和元年度第4回審議会で委員から紹介があった、元京都市教育委員会の方に現場を見てもらって実施する計画であった。ところが、当初4月下旬に現地確認を行う予定でしたが、4月7日に国から新型コロナウイルス感染症に対する緊急事態宣言が出され、外出や県境を越えた移動の自粛が要請されたことから、現場確認は延期となりました。そのため、現時点では本業務は進展しておりません。

5月25日に緊急事態宣言が解除されましたが、6月18日までは越県移動の自粛要請が出ているため、それ以降越県移動が可能になり次第、改めて日程調整を行って実施したいと考えている。

■鈴木遺跡の保存・啓発事業に対する予算配分のあり方について

【委員】 市報に掲載された令和2年度予算の概要を見ると、観光町づくり推進こたいら観光まちづくり協会への支援 3,190 万円に対し、鈴木遺跡関連予算は概要パンフ作成及び周知啓発に 659 万円と（その差は5倍近くあり）、ずい分な差だと感じた。国指定になる予定の遺跡に対し、市の認識が低いと思えてしまう。ひとりでも多く市民の方に鈴木遺跡の価値を知ってほしい。

【事務局】 観光まちづくり協会は、小平市の文化財を含む観光資源全般の周知啓発を行っているため、対象となる市内の総観光資源に対する予算の配当額は、

市内の観光資源を分母にして割れば、観光資源1件あたりに投下される額はかなり小さくなる。しかも観光協会支援額には、観光協会職員の給与も含まれているので、実際に観光資源1件あたりに投下される額はより小さいものと想定される。

それに対し、鈴木遺跡の周知啓発費659万円は、この額全てが鈴木遺跡一つに対して投下されるので、市内の観光資源と比較すると実はより充実させているものとする。